

全国学力・学習状況調査の結果について

4月18日(火)に6年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」を実施いたしました。この調査は、児童の学力・学習状況調査を把握・分析することをとおして、そこから見えてくる成果と課題を今後の学習指導や生活の改善に活かしていくことを目的として行ったものです。また、この調査はあくまでも学力の特定の一部分について調査したものです。こうした点をご理解いただき、結果をご覧いただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

1 本校児童の伸びてきている点

《国語》

国語A問題(基礎的知識)B問題(知識を活用する)共に全国平均程度の正答率だった。国語Aについては、若干全国平均を上回ったが、国語Bについては、若干全国平均を下回った。

日常的に「ドリルの時間」「家庭学習」の成果もあり、漢字や語句についての知識が身につけてきている。また、国語学習の中で手紙文、意見文、活動報告書等の様々な「文章を書く活動」にも時間をかけて取り組んできたことで「書く力」も伸びてきていると考えられる。

《算数》

算数A問題(基礎的知識)B問題(知識を活用する)共に全国平均程度の正答率だった。算数Aについては、若干全国平均を上回ったが、算数Bについては、若干全国平均を下回った。

国語同様、日常的に「ドリルの時間」「家庭学習」でつけられる力については、ある程度定着していることが見受けられる。また、「教えて考えさせる授業」を窓口として授業改善に取り組んできたことも算数の基礎的内容の定着に寄与していると考えられる。

2 課題と思われる点

《国語》

課題としては「読む力」が挙げられる。特に「書かれている内容が全体としてどのような意味を持つか」や「全体の流れの中での会話の意図を読む」ような文章を大きくとらえることに課題が見られる。これは、日頃の国語学習の中で細かな心情、情景描写等を読むことに力点が置かれ、作品や文章全体の意味・価値等を考えることが不十分になっている傾向があるのではないかと考えられる。

《算数》

算数で最も課題となったのは、数量関係の中でも「割合」に関わる部分であった。具体的な「人数(個数)」から概念としての「割合」へと発展させていくのは難しいところではあるが、確実に理解してもらえるように指導を工夫していく必要がある。

3 学校としての今後の取り組みについて

- ①国語で課題となった「読む力」の向上をめざし、「書かれている内容が全体としてどのような意味を持つか」「全体の流れの中での会話の意図を読む」などを中心に様々な要素をバランスよく学習していく。
- ②算数では「割合」の単元が5年生での学習と思われがちだが、それにつながる基礎は「1人あたりいくつ」「1時間あたりどれだけ」といった形で低学年から少しずつ積み上げていくものであるため、それぞれの学年の学習内容の理解確認に取り組んでいく。
- ③自分の考えや答えが「どうして正しいのか、どうしてそう考えたのか」を理由や根拠をもとに話し合う活動に取り組んでいく。

4 児童質問紙からみられる本校児童の様子

(児童質問紙による質問内容は92項目ありました。ここでは主な質問項目を抜粋してご報告します。)

① 本校児童のよさと思われるところ

- 「学校へ行くのは楽しいと思いますか」という設問に対しては、全国・県平均を大きく上回る94.9%の児童が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた。楽しい学校生活をすごしていることが一番大切に喜ばしいことである。
- 「学級の友だちとの間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して相手の考えを最後まで聞き自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか」という設問に対しては、全国・県平均を大きく上回る92.3%の児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた。両学級とも良好な話し合い活動が行われている様子がうかがえる。
- 「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「先生は授業やテストでまちがえたところや理解していないところについて、わかるまで教えてくれますか」という設問に対しては、両設問とも全国・県平均を大きく上回る97.4%の児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた。先生から認めてもらっていると思うことが児童の大きな自信につながると考えられる。
- 「読書は好きですか」という設問に対しては、全国・県平均を上回る94.9%の児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた。本校では朝の活動の時間に読書を多く取り入れたり、読みか聞かせボランティアに入っていたりしている成果と考えられる。
- 「学校のきまりを守っていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問等に対しても、全国・県平均を上回る回答となっていて望ましい人権意識の高揚も感じられる。

② 課題と思われるところ

- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という設問に対して、全国・県平均をやや下回る回答だった。「総合的な学習の時間」については、今後の学習内容を見直し自分から課題を見つけ追究し調べたことを発表する機会も多く設けるように授業改善をはかっていきたい。
- 同様に「普段の授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていますか」の設問に対して、全国・県平均を若干下回る回答だった。普段の授業で、特定の児童の発言のみに偏らず多くの児童の発言を取り上げられるように工夫していきたい。
- 「学習の内容を振り返る活動をよく行っていますか」の設問に対する回答も全国・県平均を若干下回る結果となった。日常の家庭学習の取り組みで東三校や須坂市版の「家庭学習の手引き」をもとに5、6年生であれば1日1時間以上の学習を行うよう働きかけているが、その定着を今後もはかっていきたい。
- 「算数Bの調査問題の解答時間は十分でしたか」の設問に対して「やや足りなかった」の回答が全国・県平均を上回った。「知識を活用する」難易度の高い問題にねばり強く一生懸命取り組んだ状況がうかがえるが、時間が足りなかったと感じる児童が多くいたところに今後の問題への取り組み方などにも工夫が必要である。

総合学力調査の結果について

今年度より6年生対象の「全国学力・学習状況調査」実施の同日に2年生から5年生を対象に「総合学力調査」を実施いたしました。この調査は、6年生の「全国学力・学習状況調査」と同様、児童の学力・学習状況調査を把握・分析することをとおして、そこから見えてくる成果と課題を今後の学習指導や生活の改善に活かしていくことを目的として行ったものです。また、この調査も学力の特定の一部について調査したものです。こうした点をご理解いただき、結果をご覧いただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

	結果	今後の改善点
2年	<p>平均正答率では国語の「話す力・聞く力」と「言語」の領域では、全国平均並だったが、「読む力」の領域は、やや下回った。</p> <p>算数の「知識」「理解」「技能」の領域は全国平均並だったが、「数学的な考え方」の領域では、やや下回った。</p>	<p>国語の「読む力」については、学習習慣形成の先生とのティームティーチング（TT）で説明文や物語の内容を丁寧に読み、要旨・主題・心情を理解できるように指導していく。また、初めて触れる文章を時間内に読んで理解し、設問に答えることに慣れるために読書を勧めたり教科書以外の文章問題に取り組みせたりする。算数では「数学的な考え方」や「数量関係」の領域で定着の進み具合に応じて個別に指導したりペアやグループによる子ども同士の教え合いの機会を増やしたりする。</p>
3年	<p>国語・算数とも平均正答率が全国・市平均をやや下回った。本学年の傾向として学力面での個人差が大きく学習内容を十分に理解できていないままになっていたり学習したことが十分理解できていなかったりしている点が課題である。</p>	<p>学習内容が十分理解できていなかったり、定着できていなかったりすることの対策として、1時間1時間の授業でつけるべき力を明確にし、教材を工夫したり子ども同士の学び合いを取り入れたりするなどの授業改善をはかっている。また、ドリルの時間（スタディタイム）を活用したり家庭学習がしっかりできたりするように指導していく。</p>
4年	<p>平均正答率で見ると国語・算数とも全国・市平均よりやや低かった。理科は市の平均より若干高かった。国語はテスト後半の応用問題の未回答率が高かった。</p> <p>算数も「平面図形」以外の設問は全国・市平均をやや下回った。</p>	<p>国語では、問題文を含めた説明的文章の読解力を高めていく必要がある。特に文と文とのつながりや関係性を的確に読み取る活動に重点をおく。また、自分の考えを文章でまとめる力が不十分であるので主述の関係を明確にし、筋道を立てて短文で説明する場面を意図的に設けていく。</p> <p>算数では、「式と計算」「量と測定」の各領域において、今年度学習する単元に合わせて適宜復習していく。技能面の処理が弱い場合、日常生活で「数学的思考」が活用できる具体的な場面を想定して考えるようにする。</p>
5年	<p>平均正答率をみると、国語・算数・理科とも須坂市の平均よりは高く、全国平均よりは若干低かった。</p> <p>国語では、「応用・記述・書く・読む」の領域、算数では「短答式・数学的な考え方・小数・図形・角」の領域に弱さがみられた。</p>	<p>まじめに学習に取り組む姿勢はできているが、「めあて」をもって取り組むことに不十分さがあるので、授業ではゴールを明確にした授業展開を徹底する。家庭学習では、その日の課題の意味を意識づけするようにし、作業的な学習にならないようにしていくことを大事にする。学級では共に学習する仲間のよさをお互いに意識できるような環境づくりに努める。そして、自ら意欲的にねばり強く学習に取り組む「学びの基礎力」の向上につなげる。</p>

9月22日（金）校長講話 「松の木のよう生きる」

須崎市立仁礼小学校長 山崎 茂



2学期始業式、児童に、左の写真「石に生きる一本の松の木」と出会っていただきました。

本校の学校教育目標は「よく学び よく遊び たくましく」です。

この学校教育目標の最後のことば「たくましく」とはいったい何なのか。この松の木を通して、児童とともに考え、具体的な児童の姿として伝えていきたいと思ひます。

2学期始業式に「石に生きる一本の松の木」を紹介しました。そこで私は、この仁礼小学校にも「松の木」がないかさがしてみました。

見つけました。この松の木は、どこにあるかわかりますか。(スライド①)では、この松の木はどこにあるでしょうか。(スライド②)そして、これらの「松の木」の下にいったら、このようなものを見つけました。(松ぼっくり の実物)

この「松ぼっくりは、松の木と関係があるのでしょうか」

私は、さらに興味関心がわいてきて、「松の木」や「松ぼっくり」について調べてみました。

松ぼっくりは松かさとも言われ、松の木の果実だそうです。松の木は英語でパイン、果実はアップルといい、要するに「松ぼっくり」のことを英語でパインとアップルということになります。そういえば、パインナップル(実物)は松ぼっくりに似ていますね。(松ぼっくりに似ていることからパインナップルという名前になったという説。)名前について調べてみるとおもしろいですね。皆さんの名前にも様々な願ひがあると思ひます。

さて、このペットボトルの中にあるもの見えますか。「松ぼっくり」です。(ペットボトルに入った松かさ)私は、どのようにしてこの「松ぼっくり」を、このペットボトルの中に入れたのでしょうか。

「松ぼっくり」は、水にぬらすと、「かさ」を閉じ、乾燥すると「かさ」を開くという性質があるそうです。だから、水にぬらしたら、本当にこのペットボトルの中に入りました。では、なんのために、松ぼっくりは、水にぬれると「かさ」を閉じるのか。それはね、この松ぼっくりの中に松の種があるんです。自然の雨から「この種」を守るために、要するに「我が子、新しい命」を守ったり支えたりするために「かさ」を閉じるんです。そして、太陽をあびて「かさ」を開いて、自分の子供たちである種が、風を利用して飛んでいきやすいようにしているんです。松の子供たちは、一人(ひとつ)で新たに生きる場所を見つけその場所で、一生懸命生きていくんです。

この石に生きる一本の松も、親に守られて支えられて育ち、やがて、一人(ひとつ)となって自立し、風によってやってきて、この石に舞いおり、この場所で一生懸命自分の力で生きようとしているのです。仁礼小学校でたとえれば、新たに出会った学級で、一人一人の児童が、その学級という場所で、一生懸命学習したり遊んだり、いやなことにもまけないで生活していますか。大事なのは「自分らしき、自分を大切に、自分の良さを根気よく伸ばす。また、お互い(親や子、友だち)が支え合ったり助け合ったりする」ことだと、「松の木」は、私たちに教えてくれているのだと思ひます。私は、松の木を見るたびに「たくましさ」を感じます。仁礼小学校の一人一人の児童が、松の木のように「たくましく」活動してほしいと思ひます。

